



立西巻き

[校長先生つぶやき、つぶやく（校長だより）]

尼崎市立立花西小学校
校長 笠井美香
2025. 12. 15 (月)
No.45

「つまり『みなる』ってことやね」(NO. 44) のこと

かぐや姫が、竹取の翁のもとから離れ、月世界へと昇天していくお話。

竹取物語は、小さな子どもからお年寄りまで皆、知っているお話です。かぐや姫の昇天場面では、「明け暮れ、みなれたるかぐや姫をやりては、いかが思うべき。」とのくだりがあります。「明けても暮れても見慣れ親しんでいるかぐや姫を手放して月にやっては、翁はどう思うだろうか。」と長い間、朝から晩まで大切に育ててきたかぐや姫を手放さねばならない悲しみを思っています。



11日に行われた『花と緑の専門家講習会』で、樹木医の先生が「植物を育てることも子育ても同じです。一番身近に毎日接している人が一番のお医者さんです。そばにいるものが一番の理解者です。困りや抱えている辛いところを知っている人が、手を打ってあげることです。」といったことをお話くださいました。

そのシーンで、地域の方がおっしゃいました。

「ああ。それは、つまり『みなる』ってことやね。」

はてな?? が私の中でとびました。あまり聞きなれない言葉「みなる」を調べてみました。

「みなる」とは古語で見慣れる。見てなじむ。慣れ親しむといった意味をもちます。例示として、竹取物語の「みなれたる」があり、さらに納得しました。この言葉に感動さえ覚えました。

一番そばにいるものが一番の教育者・支援者であることから、樹木に対しても子どもに対しても「みなる」くらいの存在でなくてはならないなと教育の原点に立ち返ったような気さえました。一瞬の言葉でしたが、私にとっては、大変、新鮮で心にささりました。

「明け暮れ、みなれたる我が子をやりては、いかが思うべき。」
いつか、自分の手元から巣立つ我が子。 巣立つその日まで
私たちは、親として、先生として、関わるものとして、子ども達を
しっかりと みんなで「みなる」存在でありたいと思った次第です。

そして「地域の学び(教育)の拠点」としてのど真ん中である
「尼崎市立立花西小学校」 これからも皆さんと一緒に
「みなる学校」を創っていけたらと思います。

ボランティア会議、講習会にお集まりくださった皆様に感謝申し上げますと同時に、今後とも、どうぞお力添えをよろしくお願いいたします。

